上野城下町遺跡（５次）現地説明会資料

～伊賀市上野農人町～

２０１２年７月８日

三重県埋蔵文化財センター

A 区全景（南より）

【はじめに】

上野城下町遺跡は、上野盆地のほぼ中央の台地上に位置する遺跡です。天正 13（1585）年に筒井定次（つついさだつぐ）が伊賀領主となり、伊賀上野に城を築きました。その後、藤堂高虎（とうどうたかとら）が伊賀上野城を大改修して城下町を整備し、現在に至る伊賀市上野の城下町が誕生しました。平成 12 年から平成 17 年にかけての東大手通り（東ノ堅町筋）で行われた発掘調査では、江戸時代後期から幕末期にかけての遺構や堀と考えられる溝が確認され、当時の土器や銭貨（寛永通宝（かんえいつうほう））が出土しています。また古墳時代の円筒埴輪（えんとうはにわ）も小片ではありましたが出土しました。ここ農人町（のうにんまち）でも古い絵地図から、今回の調査箇所が侍屋敷であったことが分かっています。

それでは、調査によって分かった内容をみていきましょう。

上野城下町遺跡位置図（国土地理院数値地図１：25,000「上野」を使用）

【おわりに】

今回の調査は、国道の改良工事に伴って実施したもので、発掘調査面積も決して大きくはありません。しかし、古墳が２基見つかったことで、上野城下町がつくられる以前のこの台地には、古墳がたくさん築かれていた可能性があることがわかり、大きな成果を得ることができました。上野城下町遺跡は江戸時代の遺跡ですが、それ以前はどうであったのか、あまり詳しくは分かっていません。ただ、北側の柘植（つげ）川・服部川、南側の久米川、西側の木津川に囲まれたこの台地は、城郭とその城下町としてだけではなく、古来より盆地を見渡すことができる好条件の地であったことは明らかです。今回の発掘調査現地説明会が、遠い昔の景色やそれを見つめた太古の人々の思いに触れていただく機会になればと思います。

調査遺跡名	上野城下町遺跡
所　在　地	伊賀市上野農人町
原因事業名	平成24年度国道２５号国補道路改築事業
調査実施機関	三重県埋蔵文化財センター

作業風景（黒い筋が周溝）

【古墳】

調査では、２基の古墳が見つかりました。古墳は円墳で、直径約１３ｍです。古墳は本来盛土（墳丘）がありますが、２基ともに墳丘は削平されていました。古墳の周りには溝（周溝）が掘られており、その幅は約３ｍです。周溝からは須恵器が出土しました。周溝の一番上の層からは江戸時代（今からおよそ 250 年前）の陶磁器が出土していることから、周溝が完全に埋まったのは江戸時代とみられます。城下町を整備するにあたって、墳丘が削平されたのかもしれません。

須恵器出土状況

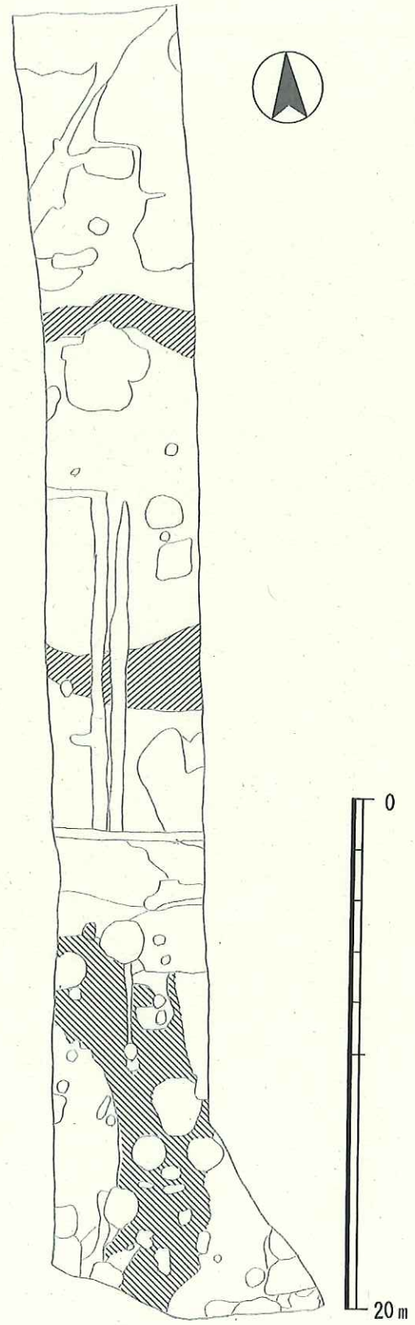
【古墳時代の出土品】

古墳時代の遺物として須恵器と埴輪があります。須恵器は古墳時代の５世紀（今から 1600 年ほど前）に朝鮮半島から伝わり、日本でも生産され始めた青灰色で硬質の土器です。ここで見つかったのは５世紀末から６世紀中ごろのものです。また円筒埴輪も見つかっています。これらの須恵器や埴輪は、元々は墳丘に並べられており、それが周溝へと転落したものと考えられます。

【江戸時代の遺構・出土品】

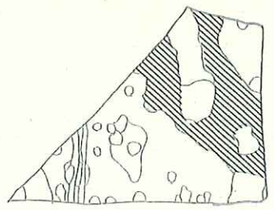
江戸時代のものとしては屋敷の跡が見つかっています。土地を区画した溝、ごみ穴（土坑）のほか、建物の一部と考えられる柱穴などがあります。柱穴には根石とみられる石を伴っているものもあります。

また今回見つかった江戸時代の土器には、土師器・陶器・磁器などのほか、当時の通貨である「寛永通宝」があります。磁器には金箔を貼ったものや、一度割れたものを治す「焼きつぎ」が施されているものなど、珍しいものもありました。



▧ １号墳周溝

▨ ２号墳周溝



上野城下町遺跡第５次調査区平面図